

平成 28 年度

病害虫発生予察情報 第 16 号

特殊報第1号

北海道病害虫防除所 平成 29 年 3 月 24 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

エンドウ萎ちょう病の発生について

発生確認作物: えんどう(*Pisum sativum*)

病 害 虫 名: エンドウ萎ちょう病

病 原 菌 名: *Fusarium oxysporum* Schlechtendahl f. sp. *pisi* W.C. Snyder & H.N. Hansen

檜山振興局管内のきぬさやえんどう栽培ほ場において、国内への侵入を警戒する病害であるエンドウ萎ちょう病の発生が確認された。本病は、北米、ヨーロッパ、ロシア、オーストラリア、南アジア地域など世界各地に分布しており、国内では平成 14 年に愛知県において初めて確認され、平成 15 年に静岡県で、平成 21 年には和歌山県でも発生が認められている。

本病は土壌および種子により伝播するため、汚染土壌の移動を防止すること、健全種子を使用することが重要である。

1. 発生の確認経過

平成 27 年 8 月、檜山振興局管内のきぬさやえんどう栽培ほ場において、下葉から黄化する症状が発生した。り病株の維管束に褐変症状がみられたことから、常法により糸状菌の分離を行ったところ、高頻度で *Fusarium* 属菌が分離された。また、分離菌の形態的特徴から、発生した病害は国内への侵入が警戒されている病害であるエンドウ萎ちょう病が疑われた。このため、横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、分離菌は *Fusarium oxysporum* f.sp. *pisi* であることが確認され、道内においてエンドウ萎ちょう病の発生が確定した。

2. 発生生態

(1) 病徴

エンドウ萎ちょう病は、はじめ下葉が淡黄色となり、内側に巻く症状を呈する。やがて株全体の生育が不良となり、萎ちょう、枯死する。病原菌は根から感染し、維管束に沿って上昇するため、萎ちょうした株の茎を縦方向に切断すると維管束が地際部から数十 cm の高さまで褐変している。

同様の症状を示す病害として、エンドウ根腐病(*Fusarium solani* f.sp. *pisi*)が道内において認められているものの、根腐病は感染した株の根が激しく腐敗するため、株が容易に引き抜けるのに対し、本病は根の腐敗が比較的少なく簡単に引き抜くことができないので、両病害を区別するひとつの目安となる。

(2) 伝染源

土壌および種子により伝染する。土壌中では耐久体である厚膜胞子の状態で、5～15 年は生存可能であるとされている。

3. 防除対策

(1) 発病株は伝染源となるため、すみやかに抜き取り、ほ場外で適切に処分する。

(2) 発生ほ場では、クロルピクリンくん蒸剤またはカーバムナトリウム塩液剤による土壌消毒を実施する。

(3) 発生ほ場から土壌が他ほ場へ移動しないよう、作業機械などは作業後の洗浄を徹底する。

(4) 健全種子を使用する。

(5) 本病はえんどうにのみ発生するので、他作物への転換も有効である。



エンドウ萎凋病の症状



維管束の褐変症状